

審 議 会 次 第

日 時 平成31年2月22日(金)
10時～

場 所 防災新館3F303会議室

第9回審議会

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

(1) 定時制課程・通信制課程

(2) ICTの活用

(3) その他

4 閉 会

定時制課程・通信制課程の制度について**定時制課程**

○定時制課程とは

「夜間その他特別の時間または時期において授業を行う課程」 (学校教育法第4条)

○山梨県の定時制課程の特徴

- 多部制(中央高校・ひばりヶ丘高校)
夜間の他、昼間部・午前部・午後部など複数の授業時間を提供
※ 通常1日4校時 全日制の場合は1日6校時
- 単位制
自分で科目を選択して履修
- 三修制
中央高校通信制との併修し追加で単位修得することにより、3年での卒業が可能(通常は4年)

通信制課程

○通信制課程とは

「通信による教育を行う課程」 (学校教育法第4条)

○山梨県の通信制課程の特徴

- 単位制
自分で科目を選択して履修。標準的には4年間での卒業を目標としているが、3年でも卒業可。
- レポートの提出、スクーリング授業、テスト(定期試験)
選択した科目について自習し、レポートを作成して提出。(郵便を利用)
月2回登校して授業を受けるスクーリング授業を実施。
科目ごとに決められた回数(2~3回)のテスト(定期試験)を実施。
- 個人学習室
中央高校校舎内に自習するための学習室を設置。教員も自習をサポート。
- 技能連携制度(衛生看護科)
甲府看護専門学校(准看護学科)と連携し、中央高校で普通教科、甲府看護学校で看護の専門科目を学び高校卒業資格を得られる。

定時制課程・通信制課程について

誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネット

多様なニーズに対応した教育機会の提供
▶ さまざまな背景を持った生徒の受入れの推進の必要性

家庭の経済状況や地理的条件によらず教育機会を確保



課題

これからの定時制課程・通信制課程では、どのような学校のあり方が必要か。どのような視点での教育が必要とされるか。

定時制課程・通信制課程の今後を考える上での主要要素

多様な背景を持つ生徒の受け入れ

生徒の多様化への対応

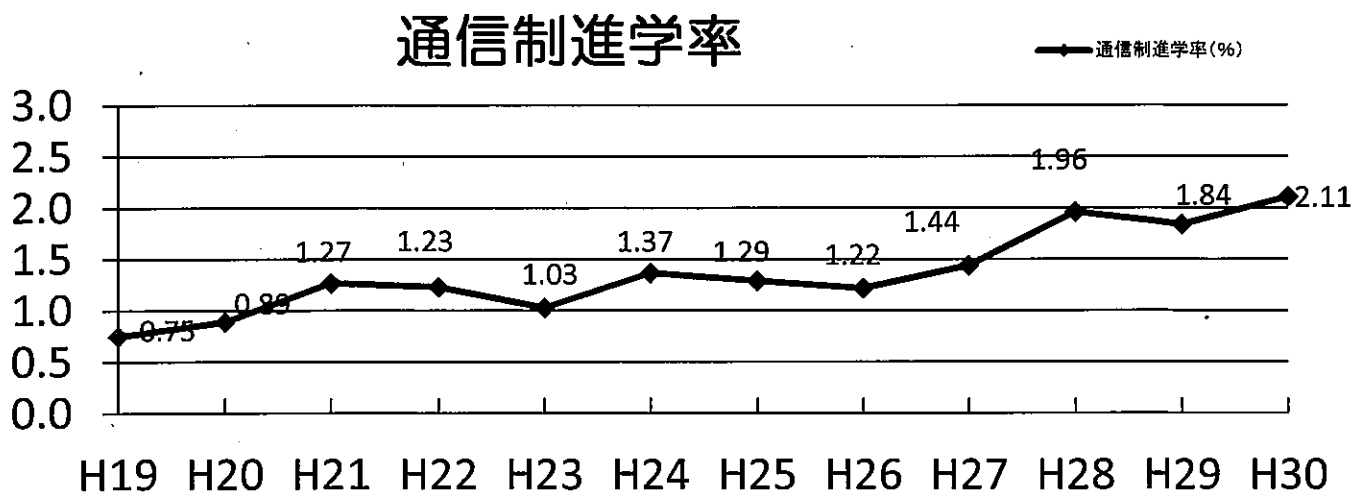
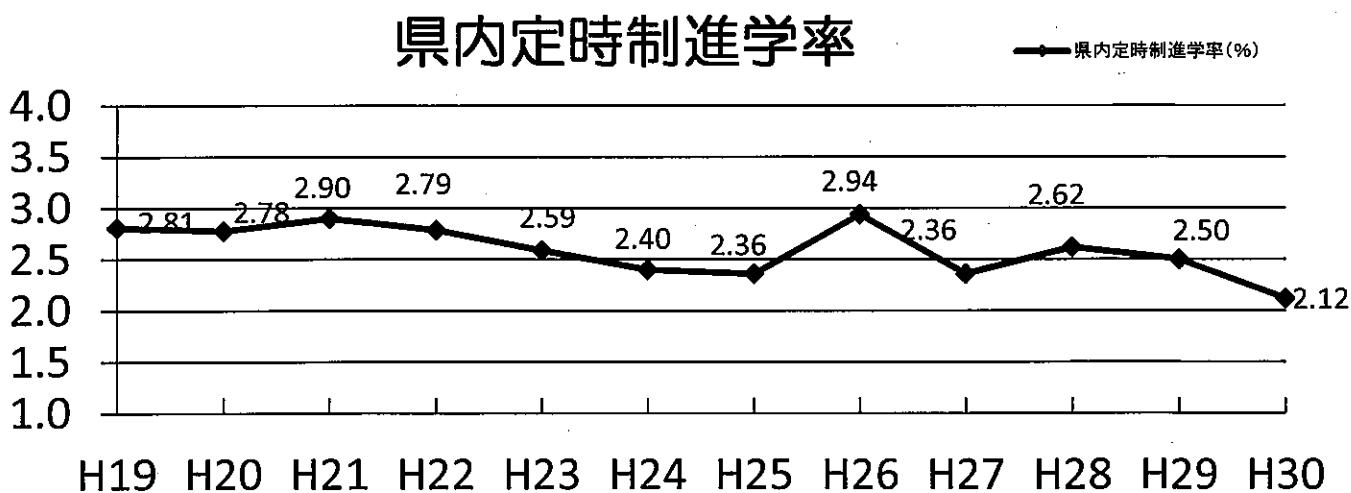
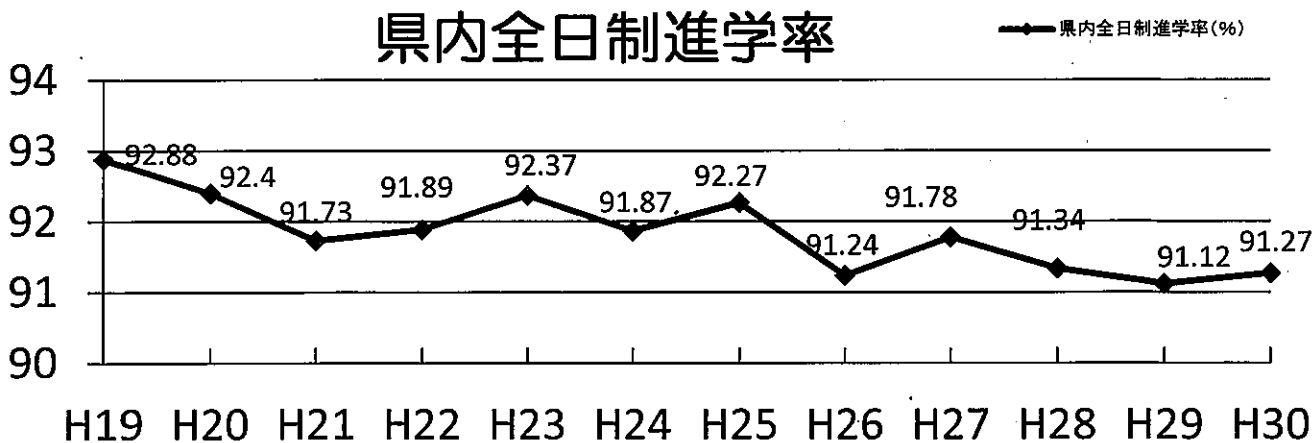
- 仕事をしながらの就学
- 義務教育段階での不登校生徒
- 全日制高校における不登校生徒等の転学受け入れ
- 子ども・社会人の学び直し
- 柔軟な編入のあり方(編入時期) など

家庭の経済状況や地理的条件 によらず教育機会を提供

家庭や地域などの条件によらず、多くの子どもたち
等が高校教育を受けられる公教育のあり方

- 入学生徒数の減少と設置校の地域バランス
- 低廉な家計負担
- ICT技術や機器の活用
- 広域通信制(私立)の多様化と増加 など

中学校卒業者の進路状況の推移 (H19~30)



学校別 生徒数 【高等学校 定時制】

2 定時制課程

(平成30年5月1日現在)

学校名	前年度 生徒数	学級数 および 生徒数										教員数		職員数
		総数		1年		2年		3年		4年		本務	兼務	本務
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数			
斐崎 普通	92	8	89	2	30	2	26	2	22	2	11	11	10	0
甲府工業 (14)	92	8	89	2	30	2	26	2	22	2	11			
機械 電気 建築 工業 専攻科(建築)	95	12	93	3	21	3	25	3	30	3	17	21	11	5
巨摩 普通	39	4	28	1	5	1	8	1	5	1	10	6	6	0
山梨 普通	25	4	26	1	8	1	7	1	9	1	2	6	7	0
都留 普通	25	4	16	1	2	1	3	1	8	1	3	7	6	0
中央 普通 情報経理	371	27	335	7	82	7	96	8	102	5	55	49	15	4
ひばりが丘 普通 情報経理	98	13	85	3	22	3	29	3	15	4	19	26	8	6
定時制合計	(14) 745	(2) 72	(11) 672	(1) 18	(9) 170	(1) 19	(7) 194	(1) 19	(19) 177	(17) 167	(124) 124	(63) 63	(15) 15	

* () は専攻科の学級数・生徒数で外数で示す。
* 公立学校の職員数は、県費負担による職員のみ的人数を示す。

学校別生徒数 【高等学校 通信制】

3 通信制課程 (県・私立)

(平成30年5月1日現在)

学校名	前年度 生徒数	学級数 および 生徒数										教員数		職員数
		総数		1年		2年		3年		4年		本務	兼務	本務
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数			
中央(県立) 普通 衛生看護 科目履修 併修	238	9	225	3	50	2	50	2	49	2	76	10	8	1
私立計	3,017	0	3,216	0	647	0	1,071	6	1,498	0	0	54	61	13
日本航空 普通 航空工学	1,685	0	1,882		271		635		976		0	21	3	8
駿台甲府 普通	912	0	833	0	249	0	267	0	317		0	15	31	2
自然学園 普通 介護福祉	266	19	315	7	72	6	92	6	151		0	14	17	1
甲斐清和 普通	154	3	186	0	55	0	77	0	54		0	4	10	2
通信制合計	<7> 3,255	<0> 0	<12> 3,441	<7> 12	<12> 1,071	<6> 1,071	<194> 1,847	<6> 1,847	<79> 79	<64> 64	<69> 69	<14> 14		

* < > は科目履修生数、[] は併修生数で、学級数も含み外数で示す。
* 私立通信制の学級数は、一部の学校のみ表記されているため、合計欄は「0」で表示する。
* 公立学校の職員数は、県費負担による職員のみ的人数を示す。

定時制課程に関する資料

経緯

昭和23年、学校教育法制定時より設けられている制度

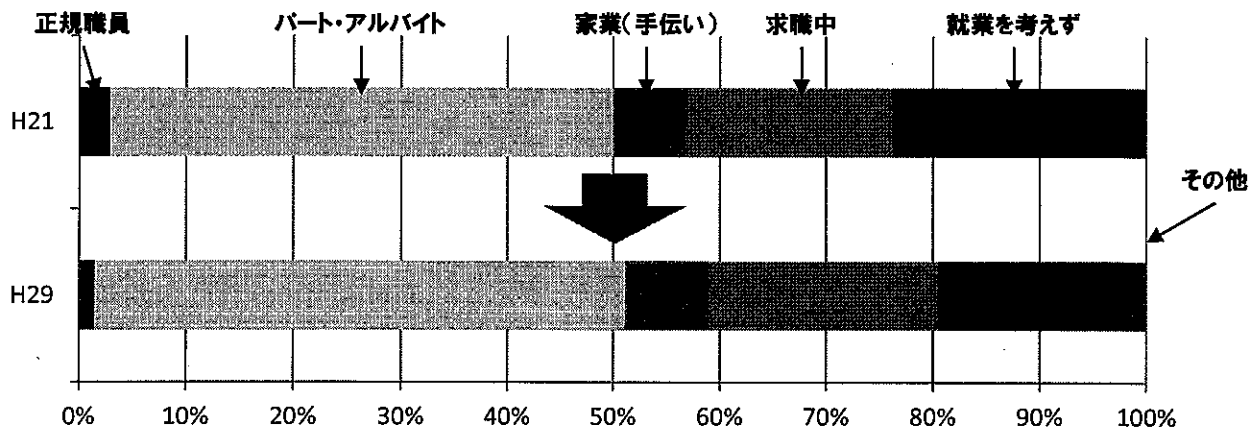
《制度創設の趣旨》

- ・ 中学校を卒業して勤務に従事するなど様々な理由で全日制の高校に進めない青少年に対して高校教育の機会を与える。

○ 現在の定時制課程の設置状況

地域	設置校
峡北	韭崎(昼)[普通]
甲府	中央(3部)[普通・情報経理](独立校・通信制併置) 甲府工業(夜)[工業]
南アルプス	巨摩(夜)[普通]
峡南	
峡東	山梨(夜)[普通]
東部	都留(夜)[普通]
富士北麓	ひばりが丘(昼・夜)[普通・情報経理](独立校)

生徒の就業状況



高校改革アンケート結果

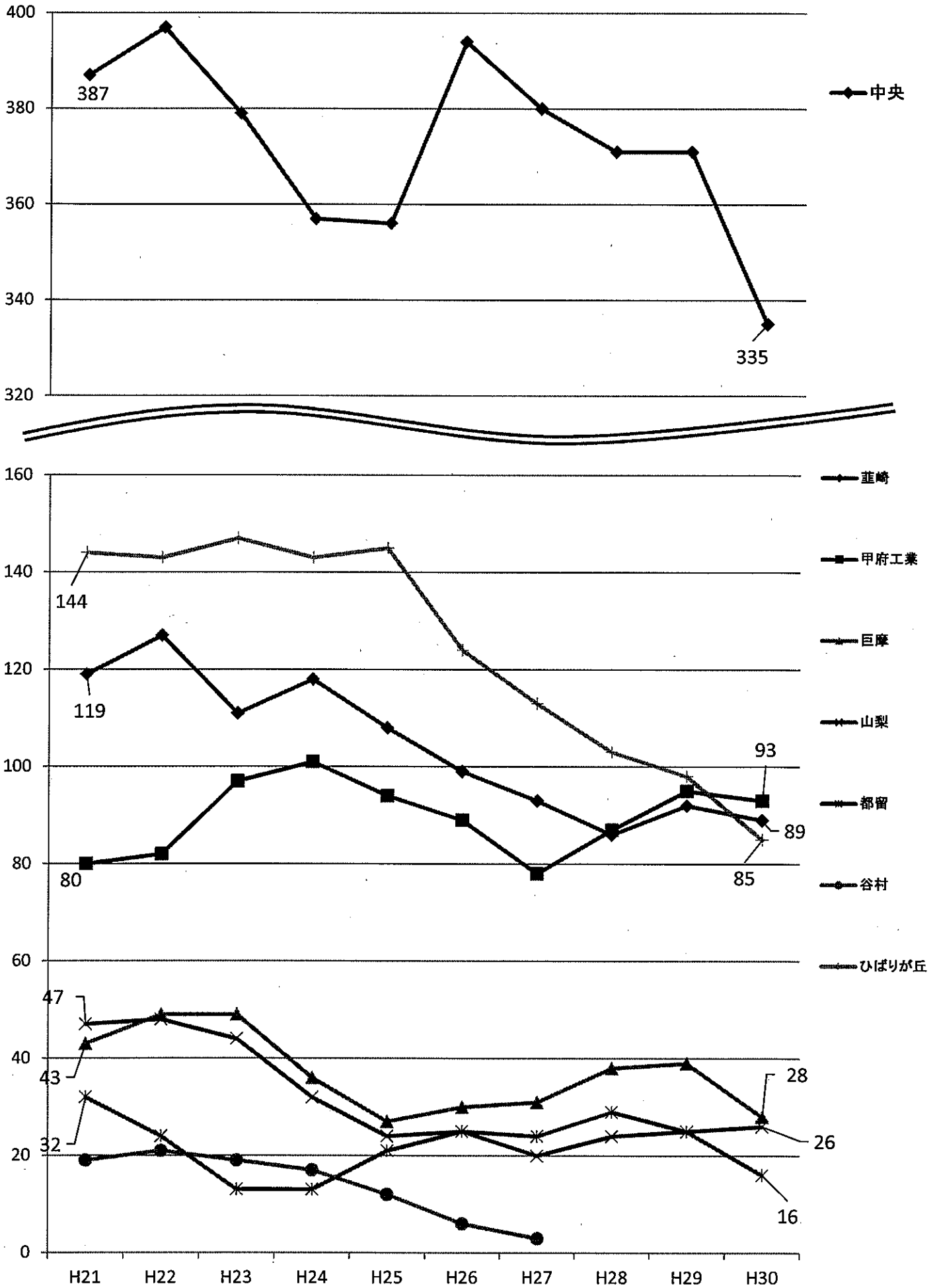
○ 定時制課程に期待するもの(H28アンケート結果)

- ① 基礎学力、社会参加の向上 60.7%
- ② 資格取得の奨励、学習支援 16.4%
- ③ キャリア教育の充実 9.4%

○ 高校選択の理由(H29アンケート結果)

- 高1生徒
- ① 学力レベル 24.2%
 - ② 通学が便利 14.4%
 - ③ 資格・免許が取得できる 12.1%
- 高1保護者
- ① 学力レベル 20.8%
 - ② 資格・免許が取得できる 13.1%
 - ③ 通学が便利 12.3%

○ 各校ごとの在籍生徒数の推移



通信制課程に関する資料

経緯

昭和23年、学校教育法制定時より設けられている制度である。制度創設の趣旨としては

- ・ 全日制・定時制高校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を与える。

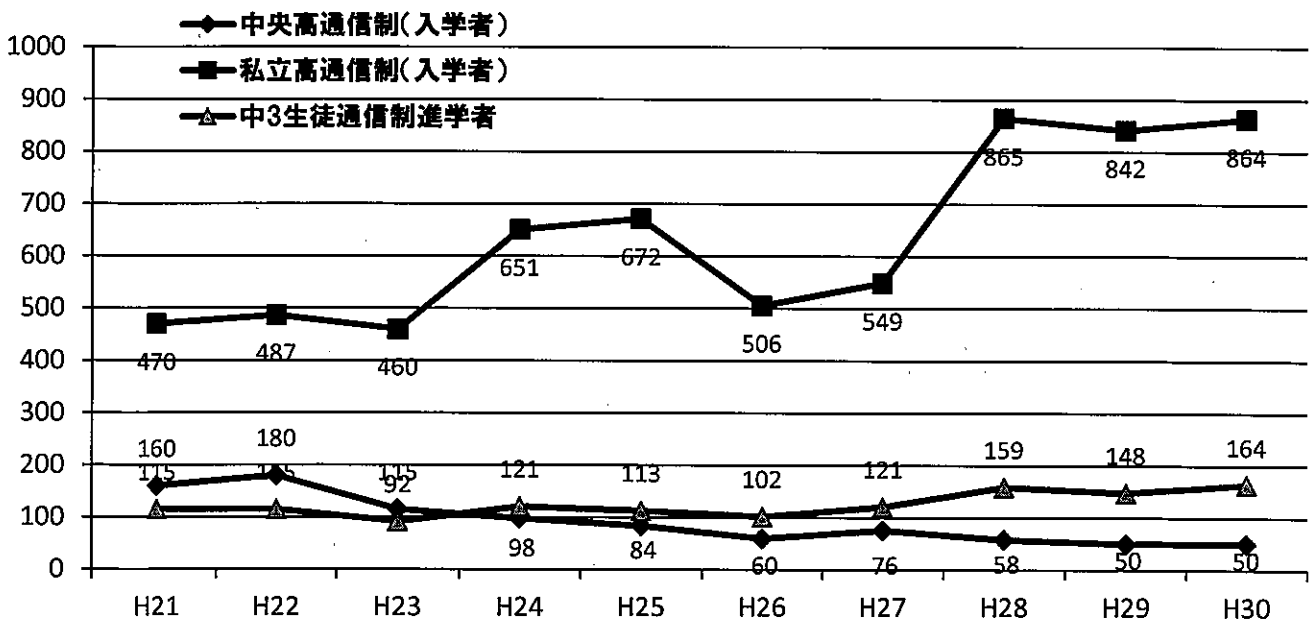
とするものである。

通信制課程を設置する県立高校は、中央高校1校である。私立高校では、県内に本拠を置く高校が4校(駿台甲府、甲斐清和、日本航空、自然学園)ある。また、広域通信制の高校への進学も広く開かれている状況であり、県外に本拠を置く広域通信制高校でも県内でのスクーリングができる学校もあり、選択の幅が増えている状況である。

○ 現在の通信制課程の設置状況

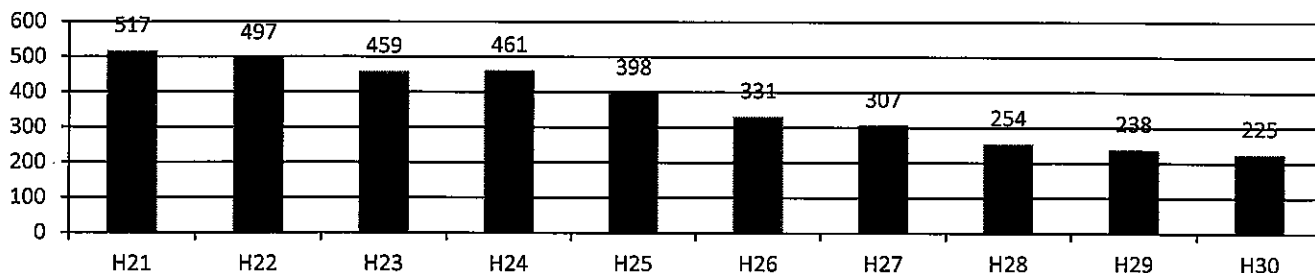
地域	設置校
公立	中央(普通・衛生看護)
私立	日本航空(普通・航空工学) 駿台甲府(普通) 自然学園(普通・介護福祉) 甲斐清和(普通)

○ 入学者数等の推移

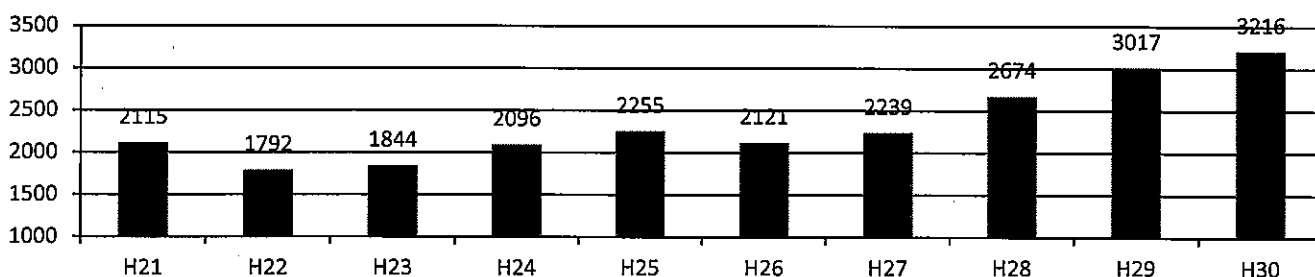


※ 新卒進学者は高校改革・特別支援教育課(新しい学校づくり推進室)調査。その他は学校基本調査結果

○ 中央高校通信制課程の総在籍者数の推移



○ 県内私立高校通信制課程(県内4校)の総在籍者数の推移(参考)



○ 学費等の比較(県立高校)

	通信制 (普通科・4年間)	定時制の例 (普通科・4年間)	全日制の例 (普通科・3年間)
入学金	500	2,100	5,650
授業料 (1単位)	22,940 (74単位) (310)	119,880 (1,620)	356,400
教科書・教材等	約46,000～	約20,000 ※2	約58,000
その他	約36,000 (諸会費・切手代等)	約65,000 ※3 (諸会費等)	約430,000 (諸会費・研修旅行費・制服代等)
就学支援金 ※1	▲22,940	▲119,880	▲356,400
計	約85,000	約85,000	約490,000

※1 受給には所得制限あり
 公立通信制 336円/単位 (参考:私立4,812円/単位(家計収入により加算あり))
 公立定時制 2,700円/単位
 公立全日制 9,900円/月 (参考:私立高校では家計収入により加算あり)
 就学支援金の対象となる単位数は74単位まで

※2 副教材がない場合
 ※3 制服購入や研修旅行がない場合

ICTの活用について

- 教育推進のための基盤の整備

ICTの利活用と情報教育(リスク管理含むリテラシーの向上)

- 可能性に挑戦するために必要となる力の育成
- 地域社会の持続的な発展を牽引する多様な力の育成
- 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネット



課題

教育や学校運営へのICT活用はどういった可能性があり、取り入れていくことができるか

ICTの導入・取り組みの事例

ICT...Information and Communication Technology 情報通信技術

山梨県

- **高校入試システム**
中学校が行う出願も含め、受付、選抜等、一連の入試業務実施のためのシステム。中学校、高校それぞれの入試業務を軽減。
- **Web教務システム**
各高校に順次導入中。出欠状況、成績管理、健康管理、各種証明事務などをICT化。教員の負担軽減及び情報流出等のセキュリティ強化が図られている。
- **民間事業者の教育サービス活用**
国の事業「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」を活用し、市川高校、富士北稜高校でICT活用のモデル事業を実施。（平成29年度～平成30年度）
企業よりWifi環境とchromebook(ノートPC)を借用し、授業内で民間事業者の教育サービスを活用した取り組みを展開している。
生徒の基礎学力の定着を図るほか、生徒の取り組みの蓄積、小テスト等のデータの蓄積から、生徒も自分の状況を把握し学習活動等を行っている。

他都道府県

東京都

- **スマートフォンの活用**
個人所有の端末を授業で活用する方針。平成30年度よりWi-Fi環境の整備を開始。

静岡県・高知県・北海道

- **遠隔授業の導入(実証研究)**
離れた学校間等をネットワークでつなぎ、双方のディスプレイやカメラ・スピーカー等の機器を利用し、遠隔地へ授業を行ったり、生徒間の交流を行っている。

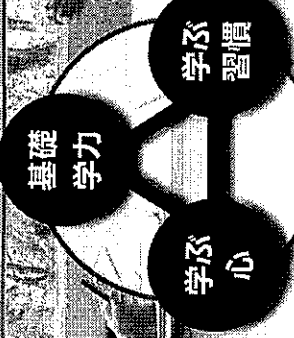
複数の自治体

- **電子黒板の利用**
映像・音声教材やウェブサイトの表示、数学におけるグラフの動きの可視化による理解促進 など。
- **タブレット端末等の利用**
グループでの学習内容をタブレット端末等を使用して整理し、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う など。

自律的・主体的な学び 未来を生き抜く力

事業内容

- ①クラッシーの生徒の学習履歴やテスト結果をデータベース化した学習カルテに基づき、個々の生徒の学力に応じた学習教材を提供(アダプティブ・ラーニング)
- ②授業の予習・復習等に効果的なICT活用方法を研究
- ③アダプティブ・ラーニングの視点に基づいたICT機器(クロームブック)を活用した授業実践に関する研究
- ④基礎学力定着をねらった教材・テストの開発
- ⑤CBT(Computer Based Testing)を用いたテスト



生徒の学び

教師からの支援
生徒に適した指導をする
生徒を励ます
生徒を深く知る

Classiからの支援
フリーファイ設置
グループ
クロームブック 40台完備

保護者からの支援

クラッシーを活用してみよう

- ◎ 自己管理ができること
- ◎ 学習意欲の向上につながる

クラッシーの一番の良さは自己の学習時間の管理が出来ること。その日行った学習について、その日の終わりや次の日の朝に、教科別に何をどのくらいの時間やったのか入力します。今までは、自分がどのくらい学習しているかは、「大体一日一時間くらい」というような感覚でしか分からなかったのですが、教科バランス、学習時間平均が一目で分かります。そして、自分がクラスでどのくらい学習しているかも、先月クラス順位なのか、昨月の学習時間はクラスで何位だったのかも分かります。

Classi
のよさ
1年4組 担任 渡邊 布見え

学習時間の記入欄にはその日の感想を先生や顧問の先生など生や顧問の先生などがコメントを返してくれます。頑張っていることがデータで残ることで多くの先生に褒められているので、学習意欲が向上につながります。クラッシーでは、その日の行事が確認出来る。また、5分の動画は、個人の別添度でお勧めの動画が選べるので自分のレベルにあったものを見ることが出来ます。

授業では、クラッシーのアンケート機能を使っている様子。新しい英単語の小テストではWebTestを使っています。今までは、小テストも受けたりもそれだけで終わっていたのですが、間違えたところを何度も繰り返し確認できます。また、授業で難しくしてわからないときは、自分でその分野の動画を検索して視聴することも出来ます。その動画は予習に使うことも出来ます。他にも模試の事前学習や事後学習など様々なコンテンツが用意されているので、使い方は無限に広がります。基礎学力をつけるためには、学習習慣をつけることが一番大切ですが、クラッシーはスマートフォンで簡単に操作でき、コメントも返ってくるので励みになり、学習をするきっかけになっています。

近未来の教室

「近未来の教室」とは、ICTを活用した授業実践に関する研究を推進し、生徒の学習意欲を高め、基礎学力を定着させることを目指しています。また、保護者からの支援も積極的に取り入れ、生徒の成長をサポートしていきます。

ICT活用を考える上での主要要素

教育活動

- タブレット・スマートホンの教育への利用
- 民間事業者の教育サービス活用
- 生徒間、学校間等のコミュニケーション
- アクティブラーニング、探究活動への利用
- 遠隔教育(サテライト授業)

学校運営

- 学校の情報発信
- 業務効率化、教員の負担軽減 など

情報セキュリティ

- 個人情報の保護
- リスクマネジメント